

大学の世界展開力強化事業（平成28年度採択）事後評価結果

大 学 名	東京大学
整理番号	A①-1
事 業 名	北京-ソウル-東京（BESETO）ダブル・ディグリー・プログラム：国際・公共政策共同研究

◇大学の世界展開力強化事業プログラム委員会における評価

総括評価 <b style="font-size: 2em;">A	事業計画どおりの成果をあげており、事業目的は実現された。
コメント 本事業は将来の東アジアのリーダーとなりうるグローバル人材を養成することを目指し、東京大学、ソウル大学校、北京大学間で、公共政策・国際関係分野における東アジア最高レベルの大学院による日中韓交流を行い、育成した学生が三カ国の国際関係改善のキーパーソンに成長し、社会に貢献していくことを目指し実施された事業である。 事業展開では、交換留学トラックでは出身大学で1年間、他の2大学で半年間ずつ学習し、合計2年間で出身大学の学位、及び他の2大学からキャンパス・アジアプログラムで単位を履修した認定書を受ける仕組みを構築している。また、ダブル・ディグリートラックでは出身大学で1年間、2つ目の学位を受ける大学で1年間、もう一方の大学で1学期間学習し、2つの学位記ともう一方の大学の認定書を受ける。交流の内容が高度であり、学内他部局、他大学にも範となる国際交流の良いモデルになっている。教職員の国際化、学生に対する手厚いケアの実施といった、本事業の実施体制も十分である。 交流学生数に関しては、初年度は準備の時間が不足していたこと、最終年度はコロナ禍の影響を受けたことから目標には達していないが、他の年度は概ね計画通りの交流がなされた。派遣と受入のバランスが取れており、学生の交流期間も十分確保されていることから、本事業の目的に即した効果が得られている。ダブル・ディグリートラックを選択する学生の割合が、事業期間の後半にかけて増加している点も評価できる。 一方で、日本からの派遣学生を増やすために、キャンパスアジアコースを国際プログラムコースと統合する等の努力はあるものの、日本人学生及び留学希望者の減少により、派遣する日本人学生が目立って増えてはいない。引き続き、日本人学生の派遣希望者を増やすための更なる対応が望まれる。 最後に、大学の世界展開力強化事業による補助期間は終了したが、引き続き質保証を伴う発展的な事業展開の実施によって、我が国の大学教育を牽引し、更なるグローバル展開力の強化に寄与されることに期待する。	